

2020/6/25

柏の景気情報(令和2年5月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報(令和2年5月分)

○ 調査期間 : 令和2年5月25日 ~ 令和2年6月10日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	70	44.9%
建設	44	20	45.5%
製造	33	13	39.4%
卸・小売	44	22	50.0%
サービス	35	15	42.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和2年5月の業況についての状況】

5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲64.2(前月水準▲67.1)となり、マイナス幅が2.9ポイント縮小した。

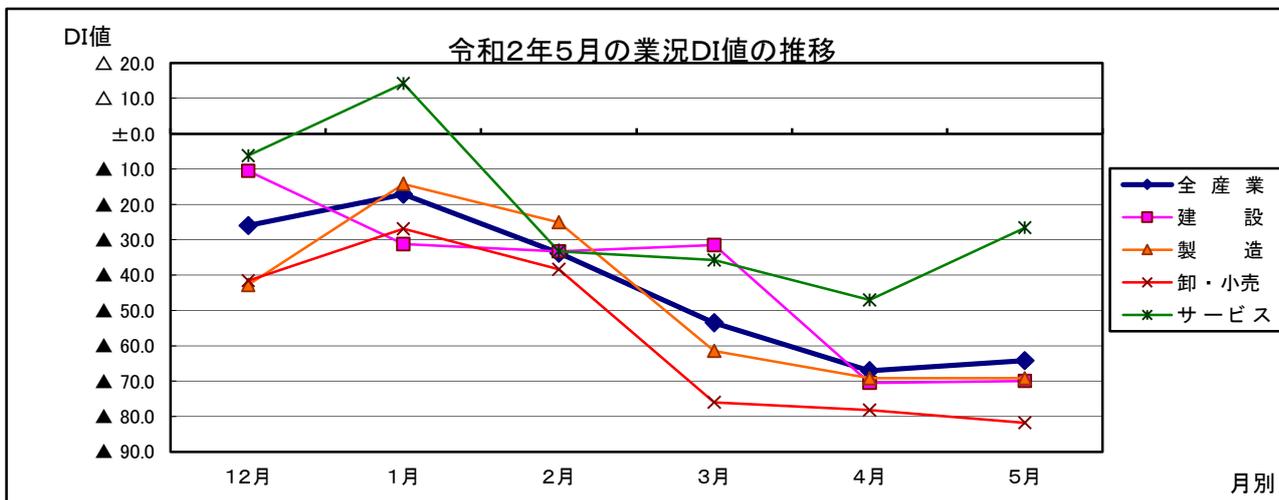
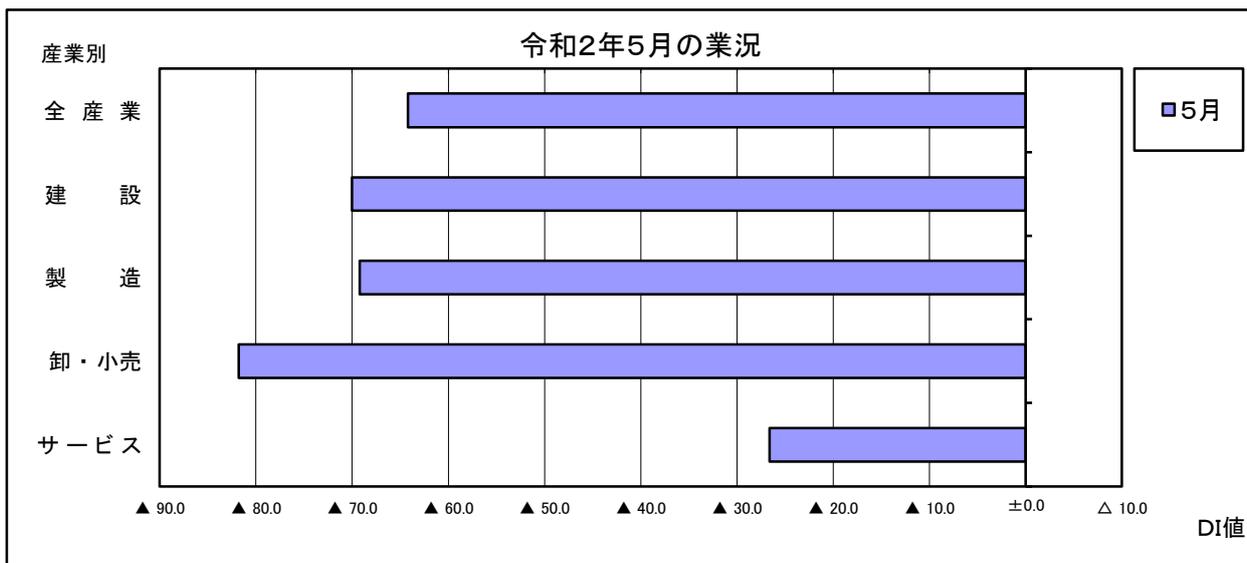
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.6(同▲47.0)、建設業▲70.0(同▲70.5)である。変らない業種は、製造業▲69.2(同▲69.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲81.8(同▲78.2)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲44.2(前月水準▲72.8)となり、マイナス幅が28.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.6(同▲64.7)、建設業▲45.0(同▲82.3)、卸小売業▲45.4(同▲78.2)である。変らない見通しの業種は、製造業▲61.5(同▲61.5)である。

令和2年5月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和元年 12月	令和2年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(4月~6月)
全産業	▲26.0	▲17.1	▲33.8	▲53.5	▲67.1	▲64.2	▲44.2(▲72.8)
建設	▲10.5	▲31.2	▲33.3	▲31.5	▲70.5	▲70.0	▲45.0(▲82.3)
製造	▲42.8	▲14.2	▲25.0	▲61.5	▲69.2	▲69.2	▲61.5(▲61.5)
卸・小売	▲41.6	▲26.9	▲38.4	▲76.0	▲78.2	▲81.8	▲45.4(▲78.2)
サービス	▲6.2	△14.2	▲33.3	▲35.7	▲47.0	▲26.6	▲26.6(▲64.7)



【令和2年5月の売上についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲68.5(前月水準▲64.2)となり、マイナス幅が4.3ポイント拡大した。

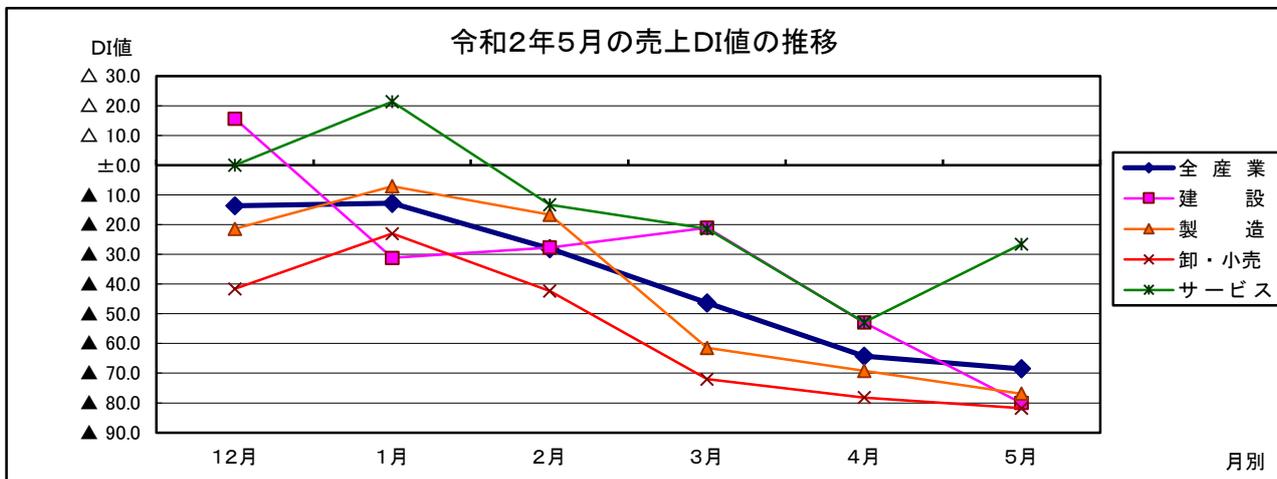
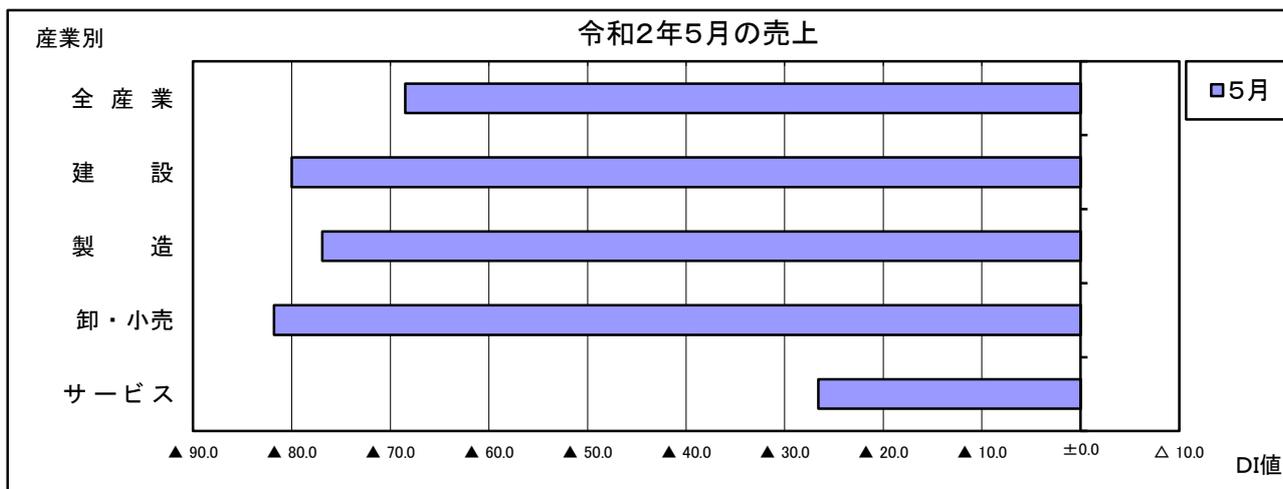
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲26.6(同▲52.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲80.0(同▲52.9)、製造業▲76.9(同▲69.2)、卸小売業▲81.8(同▲78.2)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲45.7(前月水準▲67.1)となり、マイナス幅が21.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲45.4(同▲78.2)、建設業▲50.0(同▲76.4)、サービス業▲26.6(同▲52.9)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲61.5(同▲53.8)である。

令和2年5月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和元年 12月	令和2年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲13.6	▲12.8	▲28.1	▲46.4	▲64.2	▲68.5	▲45.7(▲67.1)
建設	△15.7	▲31.2	▲27.7	▲21.0	▲52.9	▲80.0	▲50.0(▲76.4)
製造	▲21.4	▲7.1	▲16.6	▲61.5	▲69.2	▲76.9	▲61.5(▲53.8)
卸・小売	▲41.6	▲23.0	▲42.3	▲72.0	▲78.2	▲81.8	▲45.4(▲78.2)
サービス	±0.0	△21.4	▲13.3	▲21.4	▲52.9	▲26.6	▲26.6(▲52.9)



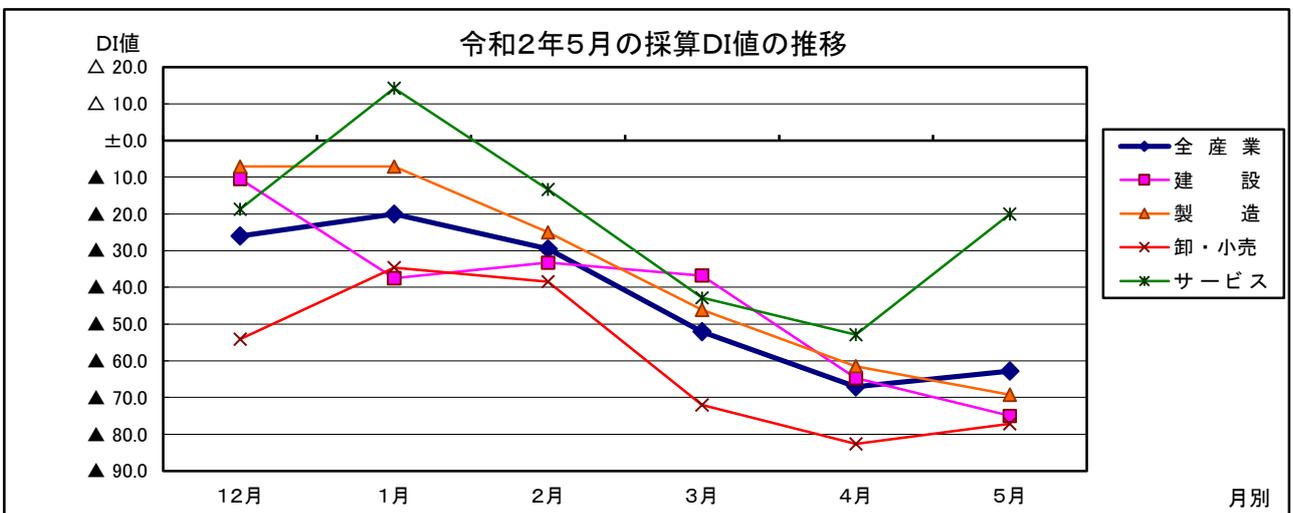
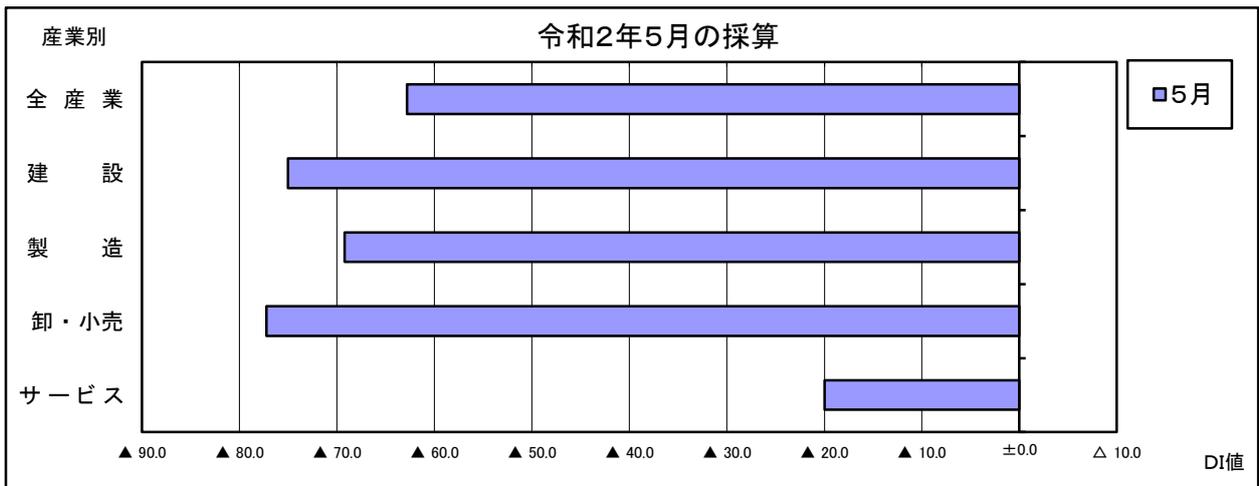
【令和2年5月の採算についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲62.8(前月水準▲67.1)となり、マイナス幅が4.3ポイント縮小した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同▲52.9)、卸小売業▲77.2(同▲82.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲75.0(同▲64.7)、製造業▲69.2(同▲61.5)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲47.1(前月水準▲68.5)であり、マイナス幅が21.4ポイント縮小する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲45.4(同▲82.6)、建設業▲50.0(同▲82.3)、サービス業▲33.3(同▲41.1)である。変わらない見通しの業種は、製造業▲61.5(同▲61.5)である。

令和2年5月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和元年 12月	令和2年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲26.0	▲20.0	▲29.5	▲52.1	▲67.1	▲62.8	▲47.1(▲68.5)
建設	▲10.5	▲37.5	▲33.3	▲36.8	▲64.7	▲75.0	▲50.0(▲82.3)
製造	▲7.1	▲7.1	▲25.0	▲46.1	▲61.5	▲69.2	▲61.5(▲61.5)
卸・小売	▲54.1	▲34.6	▲38.4	▲72.0	▲82.6	▲77.2	▲45.4(▲82.6)
サービス	▲18.7	△14.2	▲13.3	▲42.8	▲52.9	▲20.0	▲33.3(▲41.1)



【令和2年5月の仕入単価についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.8(前月水準▲22.8)となり、変わらなかった。

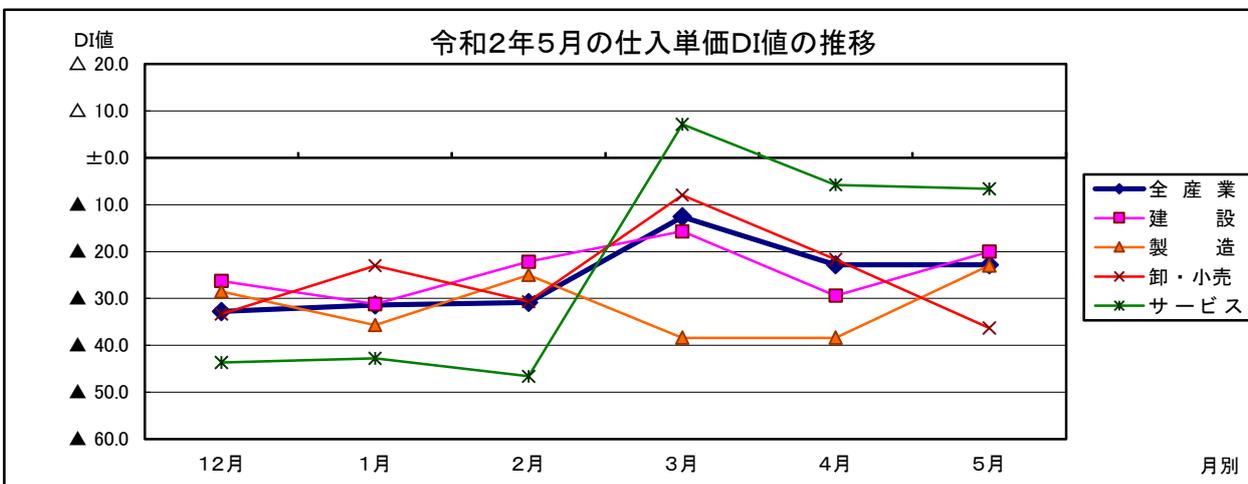
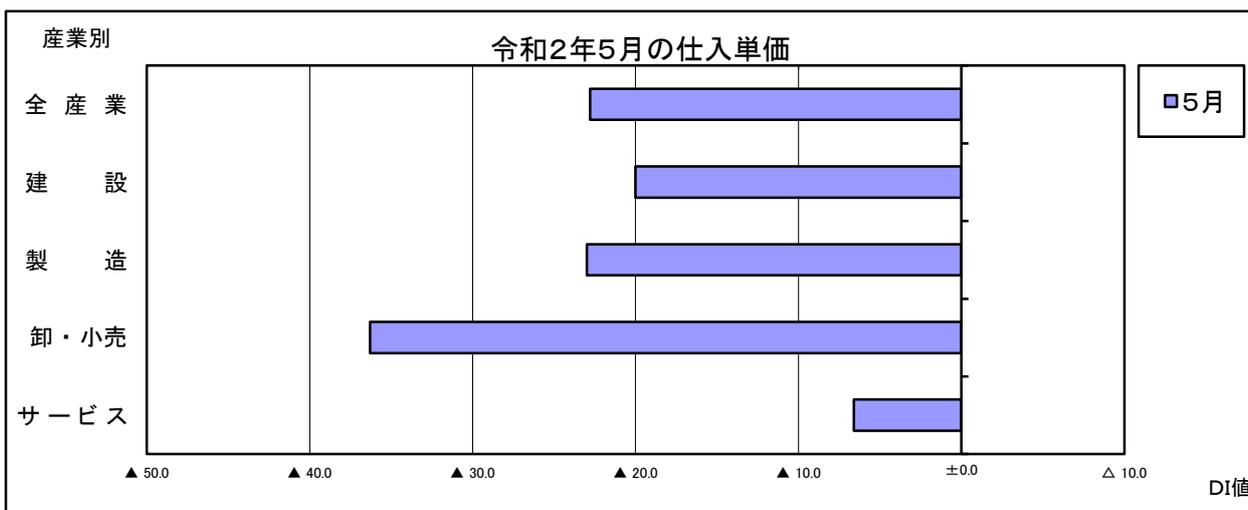
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲23.0(同▲38.4)、建設業▲20.0(同▲29.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲36.3(同▲21.7)、サービス業▲6.6(同▲5.8)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.2(前月水準▲24.2)となり、マイナス幅が10.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲7.6(同▲23.0)、建設業▲10.0(同▲23.5)、サービス業▲6.6(同▲17.6)、卸小売業▲27.2(同▲30.4)である。

令和2年5月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和元年 12月	令和2年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲32.8	▲31.4	▲30.9	▲12.6	▲22.8	▲22.8	▲14.2(▲24.2)
建設	▲26.3	▲31.2	▲22.2	▲15.7	▲29.4	▲20.0	▲10.0(▲23.5)
製造	▲28.5	▲35.7	▲25.0	▲38.4	▲38.4	▲23.0	▲7.6(▲23.0)
卸・小売	▲33.3	▲23.0	▲30.7	▲8.0	▲21.7	▲36.3	▲27.2(▲30.4)
サービス	▲43.7	▲42.8	▲46.6	△7.1	▲5.8	▲6.6	▲6.6(▲17.6)



【令和2年5月の従業員についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.5(前月水準▲4.2)となり、マイナス幅が4.3ポイント拡大した。

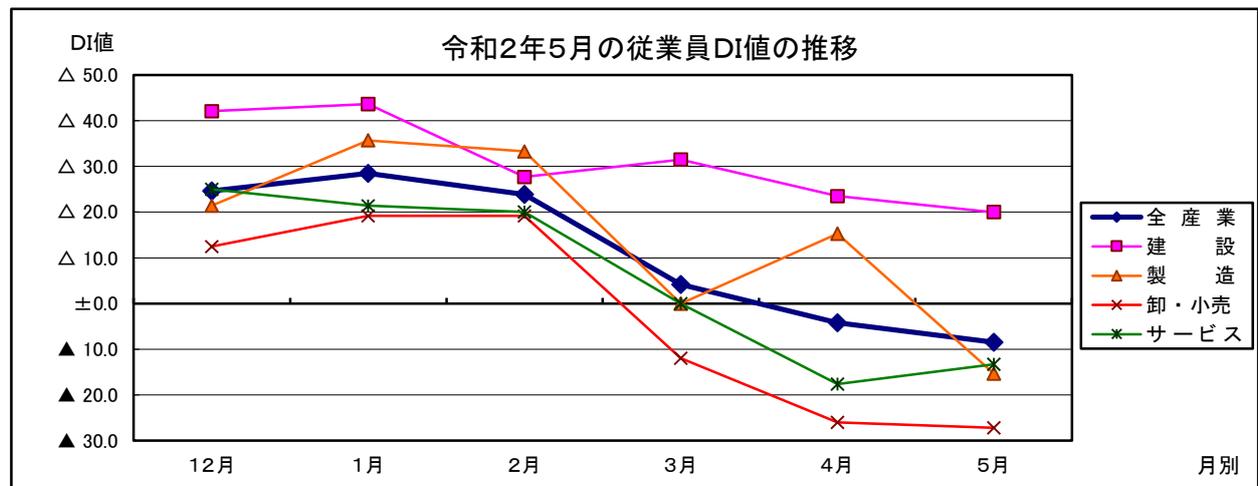
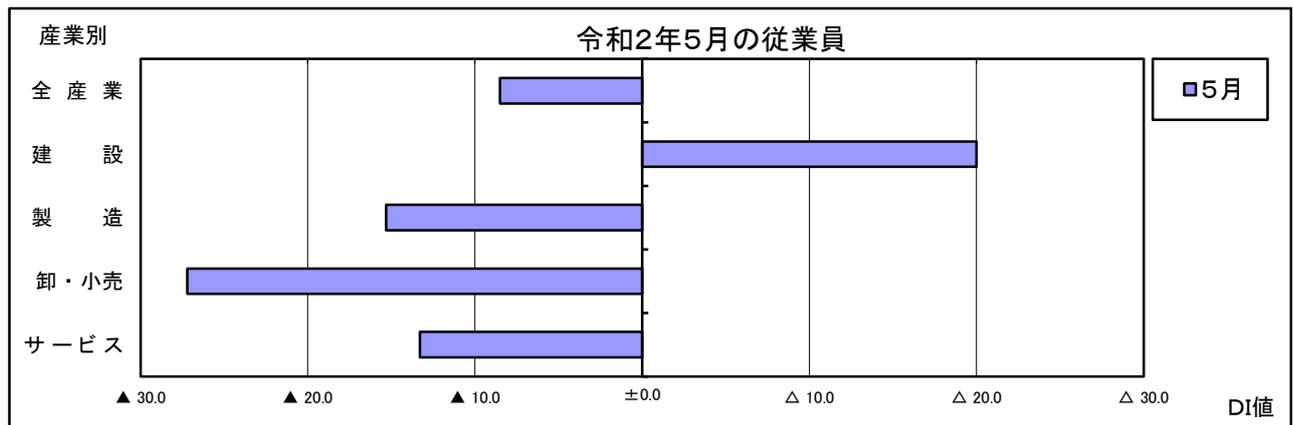
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲13.3(同▲17.6)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△20.0(同△23.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲15.3(同△15.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲27.2(同▲26.0)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.1(前月水準▲7.1)となり、変わらなかった。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲23.5)、卸小売業▲18.1(同▲26.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△20.0(同△23.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲38.4(同△7.6)である。

令和2年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和元年 12月	令和2年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	△24.6	△28.5	△23.9	△4.2	▲4.2	▲8.5	▲7.1(▲7.1)
建設	△42.1	△43.7	△27.7	△31.5	△23.5	△20.0	△20.0(△23.5)
製造	△21.4	△35.7	△33.3	±0.0	△15.3	▲15.3	▲38.4(△7.6)
卸・小売	△12.5	△19.2	△19.2	▲12.0	▲26.0	▲27.2	▲18.1(▲26.0)
サービス	△25.0	△21.4	△20.0	±0.0	▲17.6	▲13.3	±0.0(▲23.5)



【令和2年5月の資金繰りについての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲41.4(前月水準▲40.0)となり、マイナス幅が1.4ポイント拡大した。

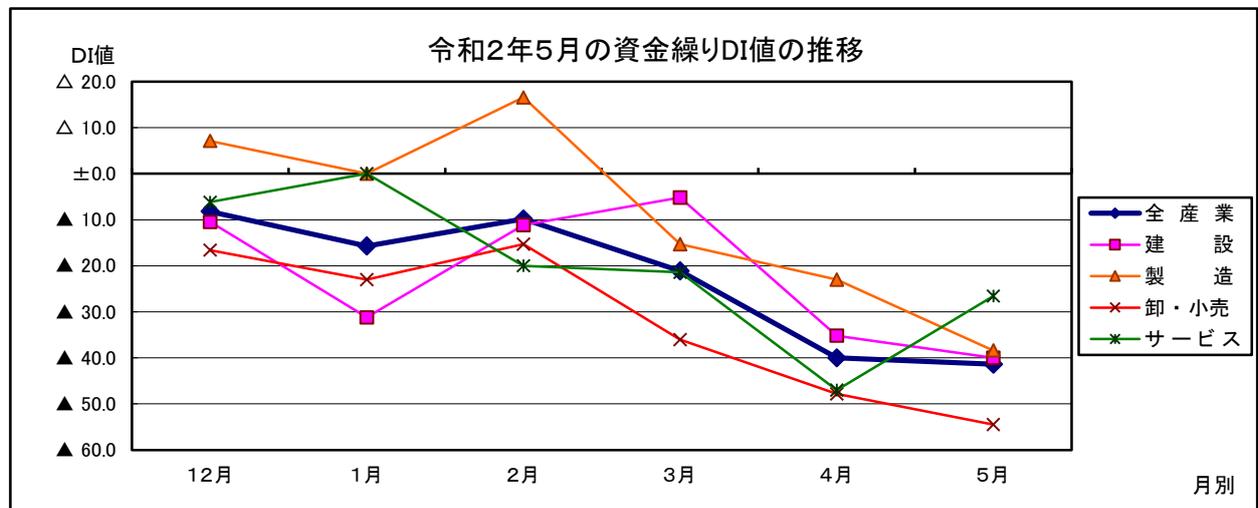
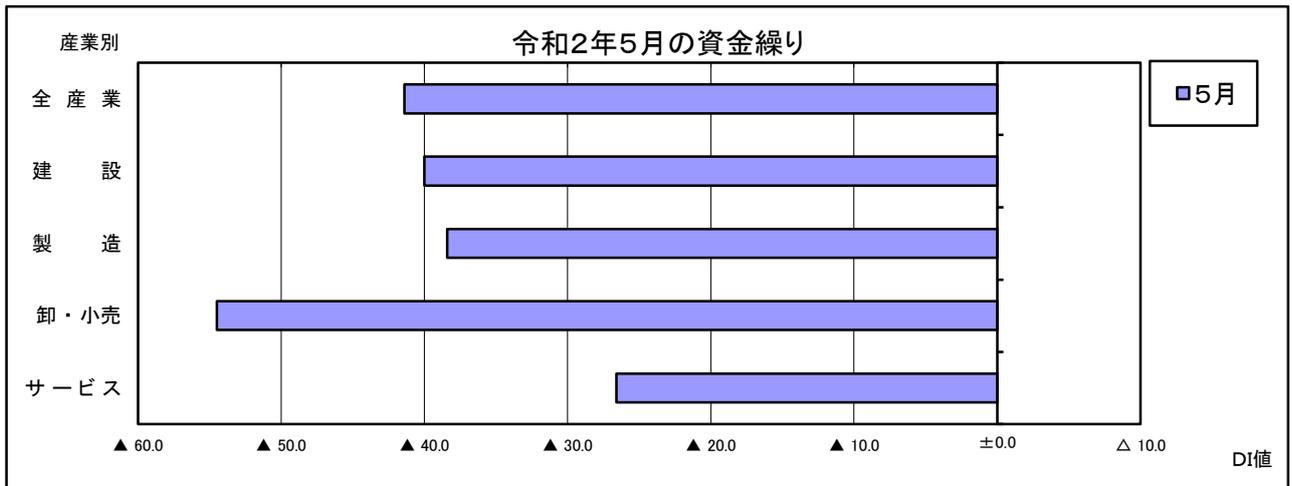
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲26.6(同▲47.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲38.4(同▲23.0)、卸小売業▲54.5(同▲47.8)、建設業▲40.0(同▲35.2)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲34.2(前月水準▲54.2)となり、マイナス幅が20.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.0(同▲47.0)、サービス業▲26.6(同▲52.9)、卸小売業▲50.0(同▲69.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲46.1(同▲38.4)である。

令和2年5月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和元年 12月	令和2年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲8.2	▲15.7	▲9.8	▲21.1	▲40.0	▲41.4	▲34.2(▲54.2)
建設	▲10.5	▲31.2	▲11.1	▲5.2	▲35.2	▲40.0	▲15.0(▲47.0)
製造	△7.1	±0.0	△16.6	▲15.3	▲23.0	▲38.4	▲46.1(▲38.4)
卸・小売	▲16.6	▲23.0	▲15.3	▲36.0	▲47.8	▲54.5	▲50.0(▲69.5)
サービス	▲6.2	±0.0	▲20.0	▲21.4	▲47.0	▲26.6	▲26.6(▲52.9)



【令和2年5月の調査結果のポイント】

≪全産業DIはわずかに改善。緊急事態宣言解除により先行き回復の期待感が多い≫

5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲64.2(前月水準▲67.1)となり、マイナス幅が2.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.6(同▲47.0)、建設業▲70.0(同▲70.5)である。変らない業種は、製造業▲69.2(同▲69.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲81.8(同▲78.2)である。

【建設業】からは、「業務改善のチャンスと考え休日確保、働き方改革を進める」(一般土木建築工事業)、「外出自粛やテレワークでインテリアに目を向けるお客様が増えつつあるので、畳工事需要の増加に期待」(畳工事請負・畳製造販売業)、「相当ダメージを受けているが、今が踏ん張り時。今後の新市場のイメージが大事」(一般土木建築工事業)、「今後、新型コロナウイルスの影響が出そうで心配」(職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「働き方改革を推進するタイミングであるが、生産性の向上ができて売上も落ち込みが大きいと人員過剰となり、今後の雇用に大きな影響が出そう。社内の配置転換を大胆にやらないと会社が持たない」(自動車付属品製造業)、「自粛要請が解かれた後の地域の盛り上がり期待」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「コジマ、ケーズデンキ、ヤマダ電機近辺に事務用品安売りの「事務キチ」が出店するようで、非常に脅威」(書籍・文房具小売業)、「気温上昇により動きのなかった衣料・肌着が動き始めた。マスクや除菌アルコールも出回りだした。従業員採用では、新型コロナウイルスで仕事がなくなったという人が増加している」(大型小売店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「貸主側の賃料減額対応にも限界があるので、商業系テナントは財政的に手厚く支えていただきたい」(不動産賃貸・管理業)、「過去にない経済の変化。身の安全、従業員保全等、生きるのに精一杯の月に」(投資顧問)などのコメントが寄せられた。

◎新型コロナウイルスの影響

「自粛の影響で仕事量激減、工期延長」(電気工事業)、「4月中旬～5月中旬まで現場が休止。再開するも工程に大幅なずれが生じ、5月の売上はほぼ無い。ただ、講習会、会議等のキャンセルで複雑な事務処理がゆっくりできた。今後も現場が少ない為、売上は厳しい」(職別工事業)、「飲食店を中心に酒類の消費量が激減。今後も以前の水準まで戻るか不透明」(酒類製造業)、「機械や部品、消耗品の注文が激減」(機械・同部品製造業)、「前年比売上60%減。長期化すれば継続に難あり」(印刷業)、「前年比90%減。ご年配のお客様は感染に気を付けている様子。緊急の修理以外の来店はほぼない」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「客数は前年比80%減。食料品のみ営業が続き、客単価も大幅ダウン。売上は70%減で営業赤字の見通し。消費が冷え込み、夏のボーナス商戦の見通しは暗く、クリアランスセールも夏物商材の確保が難しい」(百貨店)、「緊急事態宣言延長によりGW明けの売上が大幅減」(洋菓子店)、「飲食店の休業やイベント中止により在庫過多に」(食料・飲料卸売業)、「商業施設の休館が大きな痛手」(洋菓子店)、「5月14日より営業再開し、売上・収入共に回復。6月以降も回復の見通し」(各種商品小売業)、「1か月休業し、5月7日より時短営業を始めたが、駅前の人通りが回復するまでは先行きが見えない」(花・植木小売業)、「GW明けに少しずつ人の流れは出てきたが、夕方の学生がまだ戻らない。売上が戻らないまま除菌等の対策費だけがかさんでいく」(各種商品小売業)、「5月は休業。6月から営業再開予定」(酒場・ピヤホール)、「テイクアウト売上が増し、さらにチラシを配布予定。出前館を利用しているが、先行きは自社でやりたい」(食堂・レストラン)、「業況悪化の為、管理しているメインテナントが破産。滞納家賃の清算や原状回復等が管財人との関係で進められず、次の展開に見通しが見えない。テナント募集ビルや住居用マンションの入居者も全然決まらない」(不動産代理業・仲介業)、「集客は極端に減少。お客様も将来が不安で購入を控えている。高齢者の資産売却、若い人の持ち家購入意欲は強い」(不動産管理業)、「テイクアウト商品は客単価が低く売上高は大幅減少。今後も3密回避による客席の見直しで採算維持が厳しい」(日本料理)、「事業及び設備投資の据え置き等で受注延期となった分、売上に影響」(ソフトウェア業)との声寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲26.0	▲10.5	▲42.8	▲41.6	▲6.2
1月	▲17.1	▲31.2	▲14.2	▲26.9	△14.2
2月	▲33.8	▲33.3	▲25.0	▲38.4	▲33.3
3月	▲53.5	▲31.5	▲61.5	▲76.0	▲35.7
4月	▲67.1	▲70.5	▲69.2	▲78.2	▲47.0
5月	▲64.2	▲70.0	▲69.2	▲81.8	▲26.6
見通し	▲44.2	▲45.0	▲61.5	▲45.4	▲26.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 68.5	▲ 45.7	▲ 62.8	▲ 47.1	▲ 22.8	▲ 14.2	▲ 8.5	▲ 7.1
建設	▲ 80.0	▲ 50.0	▲ 75.0	▲ 50.0	▲ 20.0	▲ 10.0	△ 20.0	△ 20.0
製造	▲ 76.9	▲ 61.5	▲ 69.2	▲ 61.5	▲ 23.0	▲ 7.6	▲ 15.3	▲ 38.4
卸・小売	▲ 81.8	▲ 45.4	▲ 77.2	▲ 45.4	▲ 36.3	▲ 27.2	▲ 27.2	▲ 18.1
サービス	▲ 26.6	▲ 26.6	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 13.3	±0.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 64.2	▲ 44.2	▲ 41.4	▲ 34.2
建設	▲ 70.0	▲ 45.0	▲ 40.0	▲ 15.0
製造	▲ 69.2	▲ 61.5	▲ 38.4	▲ 46.1
卸・小売	▲ 81.8	▲ 45.4	▲ 54.5	▲ 50.0
サービス	▲ 26.6	▲ 26.6	▲ 26.6	▲ 26.6

令和2年5月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲64.2に対し、「CCI-LOBO」が▲65.8で柏の方がマイナス幅が1.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲68.5に対し、「CCI-LOBO」が▲62.6で柏の方がマイナス幅が5.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲62.8に対し、「CCI-LOBO」が▲62.2で柏の方がマイナス幅が0.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.8に対し、「CCI-LOBO」が▲15.0で柏の方がマイナス幅が7.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.5に対し、「CCI-LOBO」が▲1.9で柏の方がマイナス幅が6.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲41.4に対し、「CCI-LOBO」が▲41.9で柏の方がマイナス幅が0.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上悪い。

【令和2年5月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設業	業務改善のチャンスと考え休日の確保、働き方改革を進める。差別化した業務に特化し、選ばれる会社になれるよう業務内容を改善していく。	働き方改革 業務内容改善	一般土木建築工事業
	自粛の影響で仕事量激減、工期が延ばされている。解除後の見通し不明。	仕事量激減	電気工事業
	外出自粛やテレワークによりインテリアに目を向けるお客様が増えつつあるので、畳工事需要増加に期待。	外出自粛・テレワークの影響	畳工事請負・畳製造販売業
	新型コロナウイルスで相当ダメージを受けているが、今が踏ん張り時。今後の新市場をしっかりとイメージする事が大事。	新型コロナウイルス	一般土木建築工事業
	これから新型コロナウイルスの影響が出そうで心配している。	新型コロナウイルス	職別工事業
	新型コロナウイルスの影響で、4月中旬～5月中旬まで現場が休止。再開するも工程に大幅なずれが生じ、5月の売上はほぼ無くなった。ただ、講習会、会議等のキャンセルで複雑な事務処理がゆっくりできた。今後も現場が少ない為、売上は厳しい。	新型コロナウイルス 売上減少	職別工事業
製造業	外出自粛要請が解かれた後の地域の盛り上がり期待。	外出自粛要請解除	印刷業
	新型コロナウイルス感染拡大による影響は現状大きくないが、長期的に考えると影響が出そう。社内の働き方改革を推進するタイミングとしては良いが、生産性の向上ができて売上への落込みが大きいと人員過剰となり、今後の雇用に大きな影響が出そう。社内の配置転換を大胆にやらないと会社が持たない。	新型コロナウイルス 働き方改革	自動車付属品製造業
	新型コロナウイルスの影響により、飲食店を中心に酒類の消費量が激減。緊急事態宣言解除後に徐々に戻ると予想されるが、以前の水準まで戻るか不透明。	新型コロナウイルス 酒消費量激減	酒類製造業
	新型コロナウイルスの影響により機械の受注が激減。部品、消耗品の注文も激減。	新型コロナウイルス 受注減	機械・同部品製造業
	新型コロナウイルスの影響は大きく、前年比売上60%減。長期化すれば継続に難あり。様子見の状態。	新型コロナウイルス 売上減少	印刷業
卸小売業	前年比90%減。ご年配のお客様は感染に気を付けている様子。緊急の修理以外の来店はほぼない。緊急事態宣言が解除されても、しばらくは様子見になると思う。	来店客減少	時計・眼鏡・光学機械小売業
	客数は前年比80%減。食料品のみ営業が続いた為、客単価も大幅ダウン。売上は70%減で、営業範囲を拡大しても5月単月は営業赤字の見通し。消費が冷え込み、夏のボーナス商戦への見通しは暗い。クリアランスセールも夏物商材の確保が難しく、秋までにどれ程消費動向が回復しているのか見通し辛い。	来店客・客単価・売上減少 先行き不透明	百貨店
	コジマ、ケーズデンキ、ヤマダ電機近辺に事務用品安売りの「事務キチ」が出店するとのこと。非常に脅威。	競合店出店	書籍・文房具小売業
	新型コロナウイルスによる緊急事態宣言延長により、GW明けからの売上が大幅減。先行きが不安！	新型コロナウイルス 売上減少	洋菓子店
	飲食店の休業やイベント中止により在庫過多に。	在庫過多	食料・飲料卸売業
	商業施設の休館が大きな痛手。	商業施設休館の影響	洋菓子店
	気温上昇により動きのなかった衣料・肌着が動き始めた。マスクや除菌アルコールも出回りだした。従業員採用では、新型コロナウイルスで仕事がなくなったという人が増加している。	新型コロナウイルス 従業員採用	大型小売店
	新型コロナウイルスの影響で1か月休業し5月7日より時短営業を始めたが、駅前の人通りが回復するまでは先行きが見えない。	新型コロナウイルス 先行き不透明	花・植木小売業
	GW明けに少しずつ人の流れは出てきたが、夕方の学生がまだ戻らない。売上が戻らないまま除菌等の対策費だけがかさんでいく。	売上減少 新型コロナウイルス対策費増加	各種商品小売業
	5月14日より営業再開した事により売上・収入共に回復。6月以降も回復していく見通し。	営業再開 売上回復	各種商品小売業
サービス業	5月は休業し、6月から営業再開予定。	6月～営業再開	酒場・ビヤホール
	テイクアウト売上が増加し、チラシをさらに配布予定。出前館を利用しているが、先行きは自社でやりたい。	テイクアウト売上増加	食堂・レストラン
	過去にない経済の変化。5月は身の安全、従業員保全等、生きるのに精一杯の月になった。	新型コロナウイルス	投資顧問
	業況悪化の為、管理しているメインテナントが破産し、滞納家賃の清算、明け渡しの原状回復が管財人との関係で進められない。また、テナント募集ビルや住居用マンションの入居者が全然決まらない。まず今年中の回復は見込めないと思う。	新型コロナウイルス	不動産代理業・仲介業
	自粛ムードの中で集客は極端に減少。街の中に人通りが少ない。お客様も将来が不安で購入を控えている。高齢者の資産売却、若い人の持ち家購入意欲は強い。	客数減少	不動産管理業
	住居系賃貸は大きな影響はないが、今後は分からない。貸主側の賃料減額対応にも限界があるので、商業系テナントを財政的に手厚く支えていただきたい。経営体力があれば、知恵と行動で難局を好機に変えることができると思う。	新型コロナウイルス	不動産賃貸・管理業
	緊急事態宣言中はテイクアウト商品で売上確保を狙うも、客単価減少により売上高は大きく減少。緊急事態宣言解除後も、3密回避による客席の見直しで客数減少は避けられない。採算の維持の見通しが厳しい状況。	客単価減少により売上減少 3密回避による客数見直し	日本料理
新型コロナウイルスによって事業及び設備投資の据え置きで受注延期となった分、売上に影響あり。HPの案内だけでなく、国と自治体の支援や説明会に参加したい。	新型コロナウイルス	ソフトウェア業	

◎新型コロナウイルスの影響

「自粛の影響で仕事量激減、工期延長」(電気工事業)、「4月中旬～5月中旬まで現場が休止。再開するも工程に大幅なずれが生じ、5月の売上はほぼ無い。ただ、講習会、会議等のキャンセルで複雑な事務処理がゆっくりできた。今後も現場が少ない為、売上は厳しい」(職別工事業)、「飲食店を中心に酒類の消費量が激減。今後も以前の水準まで戻るか不透明」(酒類製造業)、「機械や部品、消耗品の注文が激減」(機械・同部品製造業)、「前年比売上60%減。長期化すれば継続に難あり」(印刷業)、「前年比90%減。ご年配のお客様は感染に気を付けている様子。緊急の修理以外の来店はほぼない」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「客数は前年比80%減。食料品のみ営業が続き、客単価も大幅ダウン。売上は70%減で営業赤字の見通し。消費が冷え込み、夏のボーナス商戦の見通しは暗く、クリアランスセールも夏物商材の確保が難しい」(百貨店)、「緊急事態宣言延長によりGW明けの売上が大幅減」(洋菓子店)、「飲食店の休業やイベント中止により在庫過多に」(食料・飲料卸売業)、「商業施設の休館が大きな痛手」(洋菓子店)、「5月14日より営業再開し、売上・収入共に回復。6月以降も回復の見通し」(各種商品小売業)、「1か月休業し、5月7日より時短営業を始めたが、駅前の人通りが回復するまでは先行きが見えない」(花・植木小売業)、「GW明けに少しずつ人の流れは出てきたが、夕方の学生がまだ戻らない。売上が戻らないまま除菌等の対策費だけがかさんでいく」(各種商品小売業)、「5月は休業。6月から営業再開予定」(酒場・ビアホール)、「テイクアウト売上が増し、さらにチラシを配布予定。出前館を利用しているが、先行きは自社でやりたい」(食堂・レストラン)、「業況悪化の為、管理しているメインテナントが破産。滞納家賃の清算や原状回復等が管財人との関係で進められず、次の展開に見通しがかからない。テナント募集ビルや住居用マンションの入居者も全然決まらない」(不動産代理業・仲介業)、「集客は極端に減少。お客様も将来が不安で購入を控えている。高齢者の資産売却、若い人の持ち家購入意欲は強い」(不動産管理業)、「テイクアウト商品は客単価が低く売上高は大幅減少。今後も3密回避による客席の見直しで採算維持が厳しい」(日本料理)、「事業及び設備投資の据え置き等で受注延期となった分、売上に影響」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

令和2年5月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 64.2	 ▲ 70.0	 ▲ 69.2	 ▲ 81.8	 ▲ 26.6
CCI-LOBO	 ▲ 65.8	 ▲ 37.7	 ▲ 69.9	 ▲ 70.0	 ▲ 77.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 68.5	 ▲ 80.0	 ▲ 76.9	 ▲ 81.8	 ▲ 26.6
CCI-LOBO	 ▲ 62.6	 ▲ 34.2	 ▲ 64.2	 ▲ 64.1	 ▲ 78.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 62.8	 ▲ 75.0	 ▲ 69.2	 ▲ 77.2	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 62.2	 ▲ 32.7	 ▲ 65.0	 ▲ 65.2	 ▲ 76.5

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 22.8	 ▲ 20.0	 ▲ 23.0	 ▲ 36.3	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 15.0	 ▲ 28.1	 ▲ 12.3	 ▲ 16.4	 ▲ 9.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 8.5	 20.0	 ▲ 15.3	 ▲ 27.2	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 1.9	 20.8	 ▲ 15.7	 7.1	 ▲ 9.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 41.4	 ▲ 40.0	 ▲ 38.4	 ▲ 54.5	 ▲ 26.6
CCI-LOBO	 ▲ 41.9	 ▲ 16.7	 ▲ 41.5	 ▲ 49.3	 ▲ 55.2

柏の景気情報

(5月の調査結果のポイント)

調査期間：令和2年5月25日～6月10日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数70件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲26.0	▲10.5	▲42.8	▲41.6	▲6.2
1月	▲17.1	▲31.2	▲14.2	▲26.9	△14.2
2月	▲33.8	▲33.3	▲25.0	▲38.4	▲33.3
3月	▲53.5	▲31.5	▲61.5	▲76.0	▲35.7
4月	▲67.1	▲70.5	▲69.2	▲78.2	▲47.0
5月	▲64.2	▲70.0	▲69.2	▲81.8	▲26.6
見通し	▲44.2	▲45.0	▲61.5	▲45.4	▲26.6

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

全産業D Iはわずかに改善。緊急事態宣言解除により先行き回復の期待感が多い

5月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、▲64.2(前月水準▲67.1)となり、マイナス幅が2.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.6(同▲47.0)、建設業▲70.0(同▲70.5)である。変わらない業種は、製造業▲69.2(同▲69.2)である。マイナス

幅が拡大した業種は、卸小売常に脅威(書籍・文房具小売品、消耗品の注文が激減)業▲81.8(同▲78.2)で業、「気温上昇により動きの(機械・同部品製造業)、「前年比売上60%減。長期化する。マスクや除菌アルコールれば継続に難あり」(印刷)

【建設業】からは、「業務改良も出回りだした。従業員採用業」、「前年比90%減。ご年善のチャンスと考え休日確用では、新型コロナウイルス配のお客様は感染に気を付けている様子。緊急の修理以外保、働き方改革を進める」(一で仕事がなくなったという人配の来店はほぼない)「時計・眼鏡・光学機械小売業」、「客数に前年比80%減。食料品のみは営業が続き、客単価も大幅ダウン。売上は70%減

【サービス業】からは、「貸造販売業」、「相当ダメージを主側の賃料減額対応にも限界を受けているが、今が踏ん張りがあるの、商業系テナント冷え込み、夏のボーナス商戦時。今後の新市場のイメージは財政的に手厚く支えていたの見通しは暗く、クリアランス(不動産賃貸・管理)難しい」(百貨店)、「緊急事態宣言延長によりGW明けの売上が大幅減」(洋菓子店、飲食店の休業やイベント中止により在庫過多に)「食料・飲料卸売業」、「商業施設の休館が大きな痛手」(洋菓子店)、「5月14日より営業再開し、売上・収入共に回復。6月以降も回復の見通し」(各種商品小売業)、「1

【製造業】からは、「働き方改革を推進するタイミングであるが、生産性の向上ができて◎新型コロナウイルスの影響も売上の落ち込みが大きいと人員過剰となり、今後の雇用減、工期延長」(電気工事)

に大きな影響が出そう。社内業、「4月中旬～5月中旬までの配置転換を大胆にやらないで現場が休止。再開するも工と会社を持たない」(自動車付程に大幅なずれが生じ、5月属品製造業)、「自粛要請が解の売上はほぼ無い。ただ、講かれた後の地域の盛り上がり習会、会議等のキャンセルでに期待」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「コジマ、ケーズデンキ、ヤマダ電機近辺に事務用品安売りの「事務キチ」が出店するよう、非(酒類製造業)、「機械や部

場・ビヤホール)、「テイクアウト売上が増し、さらにチラシを配布予定。出前館を利用して

悪化の為、管理しているメインテナントが破産。滞納家賃の清算や原状回復等が管財人との関係が進められず、次の展開に見通しが見えない。テナント募集ビルや住居用マンションの入居者も全然決まらない」(不動産代理業・仲介業)、「集客は極端に減少。お客様も将来が不安で購入を控えている。高齢者の資産売却、若い人の持ち家購入意欲は強い」(不動産管理業)、「ディスプレイアウト商品は客単価が低く売上高は大幅減少。今後も3密回避による客席の見直しで採算維持が厳しい」(日本料理)、「事業及び設備投資の据え置き等で受注延期となった分、売上に影響」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

【5月の景気キーワード】新型コロナウイルスの影響

全国の商工会議所早期景気編測調査(CCT-1080)との比較
全産業合計では、「柏の景気」が▲64.2に対し、「CCI・LBO」が▲65.8で柏の方がマ

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(5月速報)

調査期間：2020年5月14日～20日

調査対象：全国の335商工会議所が2,703企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、新型コロナウイルスにより一段の悪化。先行きも影響長期化への懸念から厳しい見方続く

5月の全産業合計の業況DIは、▲65.8と、前月から▲5.4ポイントの悪化。新型コロナウイルスの流行に伴い、消費者の外出自粛や企業の営業自粛・休業の動きが広がる中、ゴールデンウィークの観光需要消失などにより幅広い業種で売上が低迷している。加えて、固定費の負担増が資金繰りを急激に悪化させており、特にサービス業では89年4月の調査開始以来、過去最悪(※)の▲77.6を記録した(※)。

これまでは、2009年2月時の▲72.6)。また、新型コロナウイルスの影響長期化を懸念し、設備投資や採用、新規事業の見直しに踏み切るとの声も聞かれるなど、中小企業の景気感是一段と厳しさを増している。

先行きについては、先行き見通しDIが▲69.0(今月比▲3.2ポイント)と悪化を見込む。緊急事態宣言の解除や緊急経済対策の政策

効果による消費喚起を期待する声が聞かれるものの、企業・消費者のマインド低迷やインバウンドを含む観光需要の回復遅れ、サプライチェーン・生産活動への影響長期化などへの懸念に加え、新たな生活様式の浸透に伴うビジネスモデルの変容を指摘する声も多く、先行きに対して厳しい見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、製造業、小売業、サービス業で悪化、卸売業は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「新型コロナウイルスの感染防止のため、市が発注予定だった小学校や保育園の改修工事など、公共工事の大部分が中止され、受注が大幅に減少している」(一般工事業、二部の製品や電気設備用部材などで欠品が発生しており、工事を中断せざるを得ない。また、感

染リスク抑制のため工事延期を決定した取引先もあり、先行きが見通せない」(電気設備工事業)

【製造業】「ゴールデンウィークを中心に外出自粛の動きが広がり観光客が激減。5月の観光客向けの売上はほぼゼロまで落ち込んだ」(菓子製造業)、「新型コロナウイルスの影響により、展示会の中止・延期が相次いでおり、主力となる国内向け製品の販売機会を喪失。今後の売上に大きく影響を及ぼすことが懸念される」(一般産業用機械製造業)

【卸売業】「取引先等との対面接触を避けているが、営業活動への支障が大きい。受注も減少傾向にあり、このままでは設備投資に踏み切れない」(カー用品卸売業)、「外食産業向けの受注は低調なもの、菓(こ)り消費の拡大により、冷凍食品用途の需要が大幅に増加。また、キャベツなどの葉物野菜の価格高騰に伴い、販売価格も上昇し、高収益を確保できている」(農産品卸売業)

【小売業】「消費者の外出自粛や事業所の休業・営業自粛などの影響により、ガソリンや軽油の販売が低調」(石油製品販売業)、「5月9日から営業を再開したものの、消費者の外出自粛の影響から客足が乏しい。また、消毒液や従業員用のマスク、レジ等の飛沫防止用ビニールシートなど、感染防止策を講じるための経費負担も重く、出口が見えない」(百貨店)

【サービス業】「雇用調整助成金を申請したが実行までに時間がかかっている。休業期間でも社会保険料や家賃などの固定費負担が重く、資金繰りが厳しい」(飲食業)、「消費者の外出自粛や企業の営業自粛の影響により、観光客・ビジネス客の利用が低調なため、売上が半減。アルバイトの時短勤務などでしのいでいるが、影響が長期化すれば、人員削減も検討せざるを得ない」(旅館業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲29.4	▲12.8	▲35.8	▲31.4	▲40.4	▲23.9
1月	▲26.8	▲10.4	▲31.1	▲28.9	▲38.0	▲23.4
2月	▲32.6	▲13.0	▲41.5	▲37.5	▲39.5	▲28.6
3月	▲49.0	▲18.6	▲51.7	▲53.1	▲58.9	▲55.8
4月	▲60.4	▲29.3	▲63.2	▲66.7	▲64.0	▲71.2
5月	▲65.8	▲37.7	▲69.9	▲62.9	▲70.0	▲77.6
見通し	▲69.0	▲55.0	▲73.2	▲68.6	▲70.3	▲73.2